

<平成27年度 体験記の部 佳作>

# 重大事故の責任

(関東) (有)S運輸 T. S

この話は、今から13年前に私自身が起こした重大な交通事故についての体験談です。

当時私は、スーパーマーケットのセンター便配送を受け持っていました。早朝4時、センターに到着しいつもと変わらない作業で積み込みを完了。6時、定刻になり千葉市にある1店舗目に向けて出発しました。この時は、まさかその後にあんな事態になるとは思いもよりませんでした。国道16号線外回り、この時間帯は通勤車やトラックなどで渋滞になる区間もあり、安全運転には充分気をつけて走行しているつもりでした。運行開始後約1時間、千葉県柏市呼塚交差点付近。この交差点は国道16号と国道6号の交差する地点で、時間帯によってはかなりの渋滞の名所でもあります。時間が早いせいもあり、渋滞もなく青信号で交差点を通過しました。その直後、あの事故を起こしてしまったのです。呼塚を過ぎると直後に幾つかの連続した信号がありますが、3つ目の信号を通過する直前、右折待ちをしていたワゴン車が突然私の走行する車線に侵入してきたのです。私はブレーキを踏む間もなく相手正面と自車右前がほぼ正面衝突する形になり、衝撃で左の歩道側へ激突しました。事故直後、意識があったのだとは思いますが、エアバッグが破裂し目の前は真っ白。しばらく何があったのか理解出来なかったのです。

霧が晴れ、ふと私の左にあった大きな物体を触ってみると、何やら冷たい。何だろうと考えているうち、正気に戻りました。それは電信柱でした。左にそれた私の車両は、交差点にある信号機の柱に真正面から激突していた。割れたフロントガラスの向こうから、「大丈夫ですか？」と声を掛けられ、「怪我は無いみたいですが、足がはさまって動けません」そう答えるのがやっとでした。

しばらくすると、救急車、レスキュー、パトカーが到着し、救出に当たってくれました。30分以上かかり、ようやく車外へ出る事が出来たのです。救出された後、自車を見て唖然としました。ちょうどシャーシの中心だったので最も強度のある部分だったらしく、折れた柱がキャブを押し潰すように倒れかかり、柱内のワイヤーが何十本も車体に絡まっている状態でした。

あと10センチ右側だったら、確実に私は死んでいたと思います。事故処理の為、大型レッカー車3台が到着し、信号と自車を離す作業が行われました。2車線ある道路は通行止めとなり、信号を吊り、自車を持ち上げ、後ろへ引き抜かれました。その後、復旧作業にあたる信号機を設置する方、清掃処理する方、植栽作業の方。あの事故現場に警察、消防の方を含め、200人近くの人たちがいたのではと記憶しています。

事故処理の行われている中、警察官の事情聴取があり相手方と会った時の事です。「お互い怪我がないみたいだから、物損でいいよね？」と平然と言われ、私は「何言ってるんですか。外見てみなさいよ。どれだけの人に迷惑かけているか分からないんですか？」と怒鳴ってしまいました。幸いお互いに怪我はなかったものの、施設を破壊し、渋滞を起こし、会社に対してどれほど重大な事をしたのか。全くドライバーとしての意識に欠けていると思ってしまったのです。

相手方は、「赤信号なのに無視してきた。」と主張。後に、全部の信号がこちら側の青だったと判明し、私は被害者側になったものの、事故当事者である以上重大な責任がある事は変わりありません。事故後5時間近くが経過し、やっと会社の専務が到着しました。私の姿を見た専務の一言目は、「生きてて良かった、どうなってるか分からず心配したよ。」と言われ、改めて恐ろしくなっていたのを覚えています。けん引先に着いて事故車両を見た専務は、案の定絶句でした。そして、「何？本当にこんな状態で怪我ないの？」潰れた車両を見ながら本当に驚いた様子で私を見ました。

夕方、代車で納品を終えた帰り道。ラジオの交通情報から「国道16号線外回り、柏市呼塚付近は事故後の復旧工事の為、野田市まで23キロの渋滞です。」と言っていました。私の責任で世の中の人たちに迷惑をかけ、心から申し訳ない気持ちでいっぱいだったのを今でも忘れません。

四年前に運行管理者の資格を取得し、現在まで統括運行管理者の業務を行っています。また安全統括管理者も兼務し、事故の恐ろしさや安全に運行する事の大切さを社内の品質向上委員会や安全会議でこの経験を話しています。運輸安全マネジメントには「事故0」を掲げています。

しかし、些細な事故が起きており全て無くすには至っていないのも事実です。管理者として思う事は、社員全員が一丸となって安全運転を周知徹底し、事故のない会社にしたい。重大な事故を起こせば会社自体が無くなってしまいう可能性があるという事。

最近では、飲酒や危険ドラッグ使用による事故。また、高齢者などによる運転操作ミス等の死傷事故が多発していますが、こんな情報を知る度、ハンドルを握る者として、プロドライバーとして、事故を起こした経験者として悲しくなります。まずは自分自身が事故を起こさない、そして会社全体が事故0になる。いずれは社会全体の事故が無くなってくれたらと強く願います。